

ホームシアター システム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HT-SL7

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、本体やスピーカーでの操作のしかたを説明しています。付属のリモコンでも、本体と同じまたは似た名前のボタンを使って操作できます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。
☞ 知っていると便利な情報です。

本機はドルビー*デジタルデコーダー、ドルビープロロジックサラウンドシステム、およびDTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Incの商標です。

デモモードについて

本機はお買い上げ後、初めて電源を入れると、デモモードが表示されることがあります。デモモードでは、下記のメッセージが表示窓に2回表示されます。

「NOW DEMONSTRATION MODE IF YOU FINISH
DEMONSTRATION PLEASE PRESS POWER KEY
WHILE THIS MESSAGE APPEARS IN THE DISPLAY
THANK YOU」

デモモードを解除するには

上記のメッセージが表示されているあいだにI/⏻を押して本機の電源を切り、再び電源を入れてください。

デモモードにするには

SET UPボタンを押しながらI/⏻を押して本機の電源を入れます。

ご注意

- デモモードに入ると本機のメモリーはクリアされます。クリアされる内容については「初期設定をする」(13ページ)をご覧ください。
- デモモードの間は音が出ません。
- 上記のメッセージが表示されているあいだにI/⏻ボタンを押さないと、デモモードは解除されません。メッセージが表示された後にデモモードを解除するには、I/⏻ボタンを2回押してデモモードを再び表示させ、メッセージが表示されているあいだにI/⏻ボタンを押します。

目次

接続する 4

箱から出したら	4
アンテナを接続する	5
ビデオ機器を接続する	6
デジタル機器を接続する	7
マルチチャンネル入力に接続する	8
その他の接続をする	9

スピーカーの接続と設定をする ... 10

スピーカーを接続する	11
初期設定をする	13
マルチチャンネルサラウンドの設定	14
本機をご使用になる前に	18

各部の名称と基本操作 19

前面の各部の名称	19
----------------	----

サラウンドを楽しむ 21

サウンドフィールドを選ぶ	22
マルチチャンネルサラウンド表示の見かた	25
サウンドフィールドを加工する	26

FM／AM放送を聞く 29

放送局を受信する(手動受信)	30
放送局を受信する(自動受信)	31
放送局を手動で登録する	31
放送局を自動で登録する	32
登録した放送局を選局する	32

その他の操作 33

スリープタイマーを使う	34
SET UPボタンを使った設定	34

その他 35

使用上のご注意	35
故障かな？と思ったら	36
保証書とアフターサービス	37
主な仕様	38
用語解説	40
LEVEL／SURRボタン、SET UPボタンを使った設定 ...	41
リモコンのボタンについて	42
ファンクションボタンの設定を変える	44
索引	45

接続する

この章では、お手持ちのオーディオ／ビデオ機器と本機の接続のしかたを説明します。

接続する前に必ずお読みください。

箱から出したら

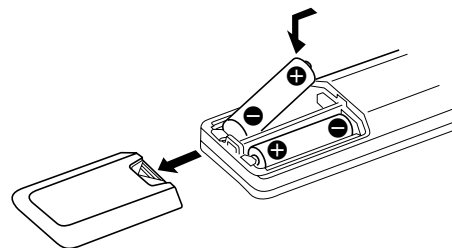
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- リモコン RM-U305S (1)
- ソニー単3形乾電池 (NS) (2)
- FMワイヤーアンテナ (1)
- AMループアンテナ (1)
- スピーカー
 - フロントスピーカー (2)、サラウンドスピーカー (2)、
 - センタースピーカー (1)、サブウーファー (1)
- スピーカーコード (5)
- 同軸デジタル接続ケーブル (1)
- スピーカーパッド (24)
- モノラルオーディオ接続コード (1)
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内 (1)
- 保証書 (1)

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる


⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池 (付属) 2個を入れる。



 乾電池の寿命は約6か月です。

残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換してください。

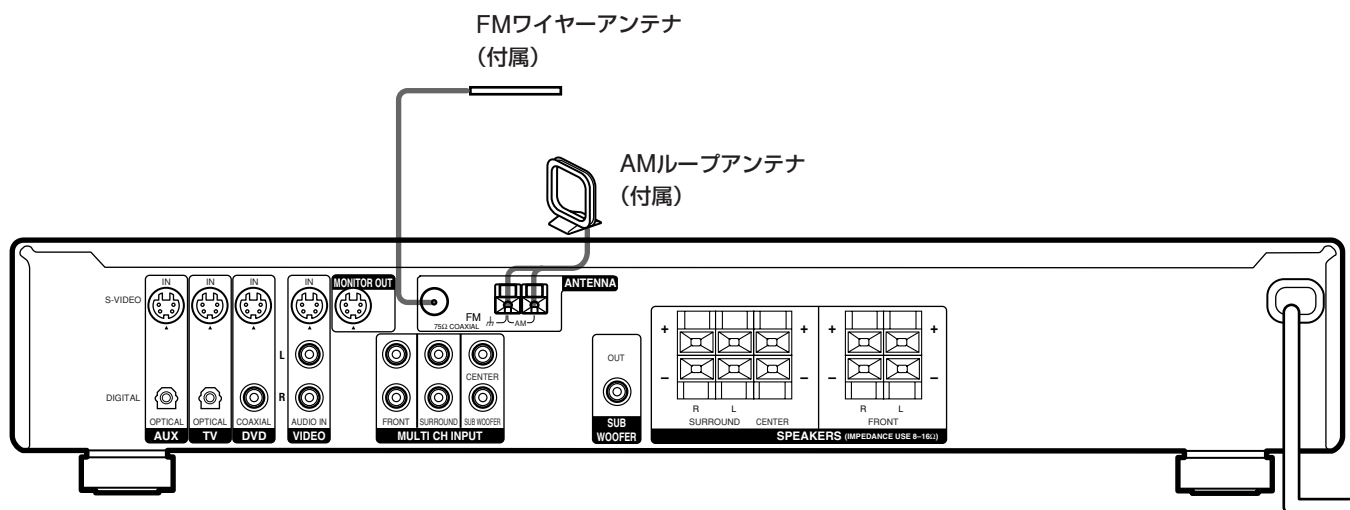
ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
 - － ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
 - － 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
 - － 乾電池は充電しないでください。
 - － 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
 - － 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。
- 光デジタル接続ケーブルを接続するときは、端子のキャップを外し、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 光デジタルコードは折り曲げたり結んだりしないでください。

アンテナを接続する

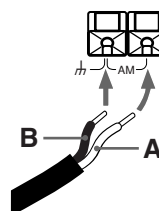


アンテナをつなぐ端子

つなぐもの	つなぐ端子
AMループアンテナ	AM端子
FMワイヤーアンテナ	FM 75 Ω COAXIAL端子

アンテナをつなぐときのご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使用しないでください。
- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、できるだけ水平に張ってください。
- 付属のAMアンテナを接続するときは、黒いコード (B) を μ マークのある端子に、白いコード (A) をもう一方の端子に接続してください。

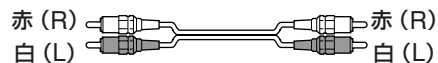


ビデオ機器を接続する

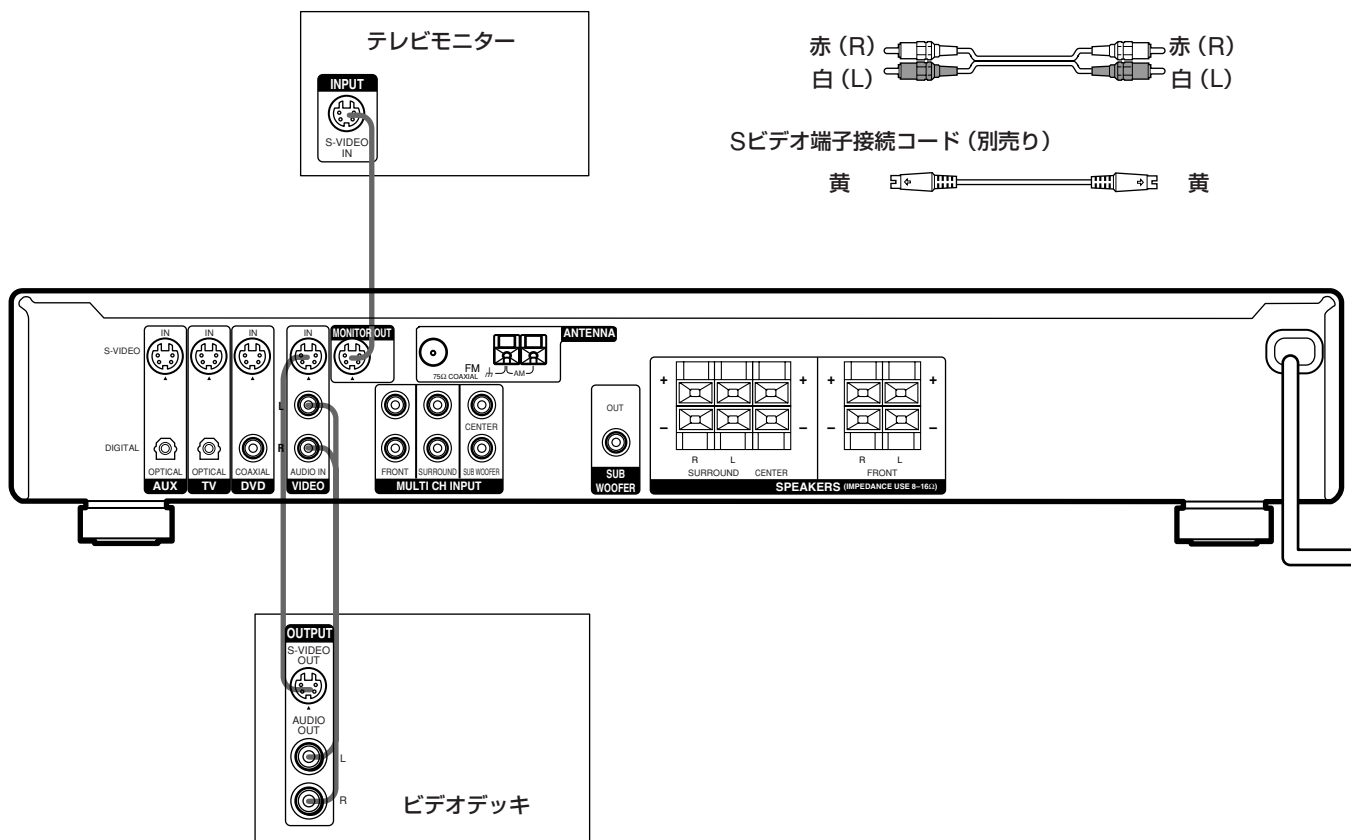
必要な接続コード

オーディオ接続コード (別売り)

白 (L) 端子には白プラグを、赤 (R) 端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。



Sビデオ端子接続コード (別売り)



ビデオ機器をつなぐ端子

つなぐもの	つなぐ端子
テレビモニター	MONITOR端子
ビデオデッキ	VIDEO端子

テレビの音声を本機で調節して聞くには

テレビのオーディオ出力端子を本機のVIDEO AUDIO IN端子につなぐと、テレビの音声を本機を通して聞き、音を調節することができます。このとき、テレビのビデオ出力端子を本機のVIDEO IN端子につながないでください。
リモコンでテレビのチャンネルを切り換えるときは、VIDEOファンクションボタンに「テレビ」を割り当ててお使いください (44ページ)。

デジタル機器を接続する

DVDプレーヤーや他のオーディオ機器（CDプレーヤーなど）のデジタル出力端子を本機のデジタル入力端子につなぐと、映画館のようなマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。

このサラウンド効果を十分に楽しむには5本のスピーカー（フロントスピーカー（2）、サラウンドスピーカー（2）、センタースピーカー（1））とサブウーファー（1）が必要です。

必要な接続コード

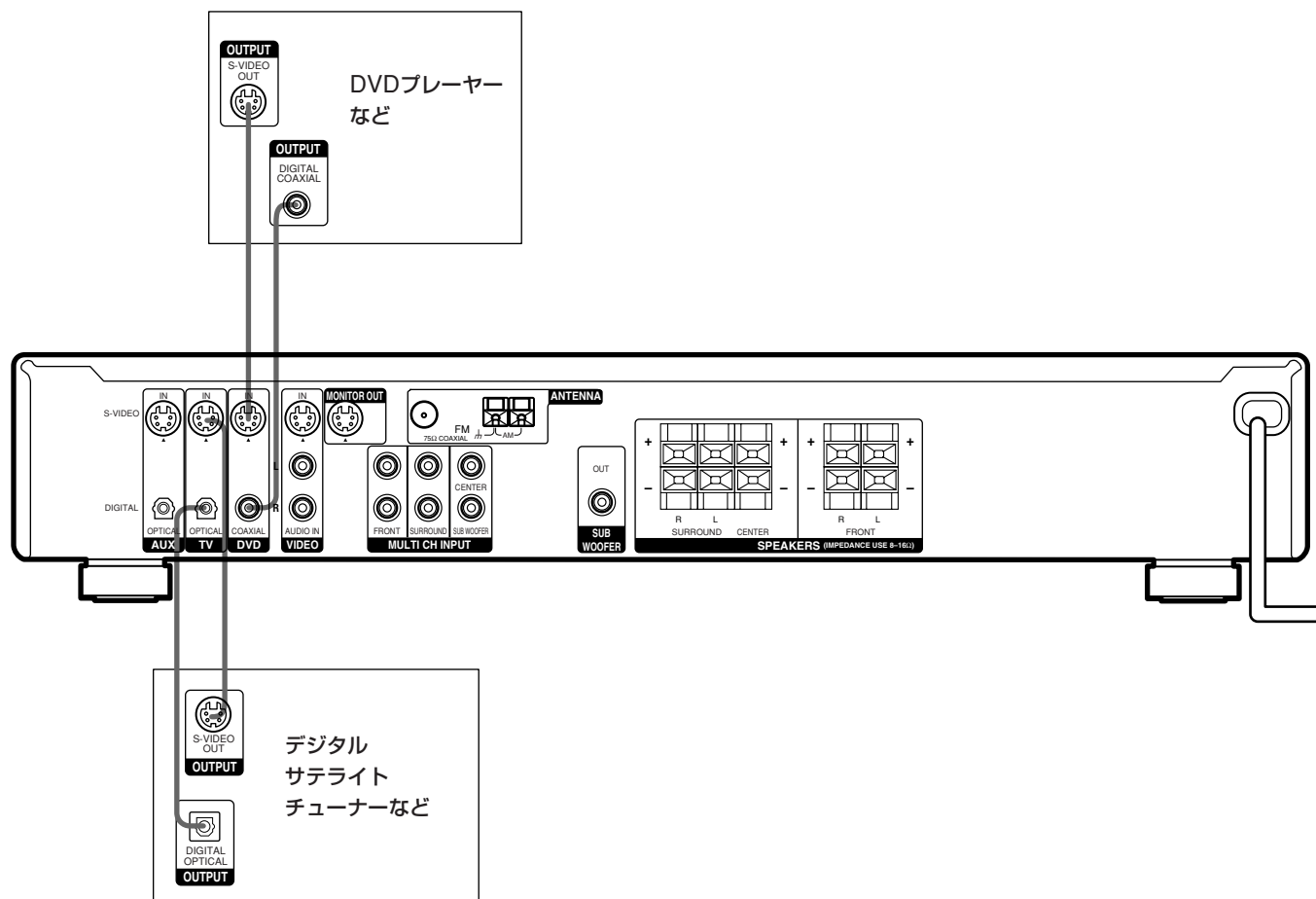
光デジタル接続ケーブル（別売り）

黒

同軸デジタル接続ケーブル（付属）

オレンジ

接続する



ご注意


- 本機のOPTICAL入力端子は、48 kHz、44.1 kHz、32 kHzのサンプリング周波数に対応しています。
- 本機のCOAXIAL入力端子は、96 kHz、48 kHz、44.1 kHz、32 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

マルチチャンネル入力に接続する

本機のMULTI CH INPUT端子にDVDプレーヤーの5.1チャンネル出力をつなぐと、本機ではなくDVDプレーヤーがデコードしたマルチチャンネルの音声をお楽しみいただけます。またマルチチャンネルデコーダーを本機のMULTI CH INPUT端子につないで、ドルビーデジタル、DTS以外のフォーマットで記録されたマルチチャンネルの音声をお楽しみいただくこともできます。

マルチチャンネルサラウンドを十分にお楽しみいただくには、5本のスピーカー（フロントスピーカー（2）、サラウンドスピーカー（2）、センタースピーカー（1））とサブウーファーが必要です。

DVDプレーヤー、マルチチャンネルデコーダーなどを接続する際は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

 **MULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声を聞きながら見る映像入力を選ぶことができます**

SET UPメニューの「MULTI CH IN映像入力」を設定します（34ページ）。

ご注意

- 下図のようにDVDプレーヤーまたはマルチチャンネルデコーダーを接続するときは、DVDプレーヤーとマルチチャンネルデコーダー側でサラウンドスピーカーとサブウーファーのレベルを調節します。
- スピーカーの接続について詳しくは、「スピーカーを接続する」（11ページ）をご覧ください。

必要な接続コード

オーディオ接続コード（別売り）


MULTI CH INPUT入力のFRONTとSURROUND接続用に2本必要です。

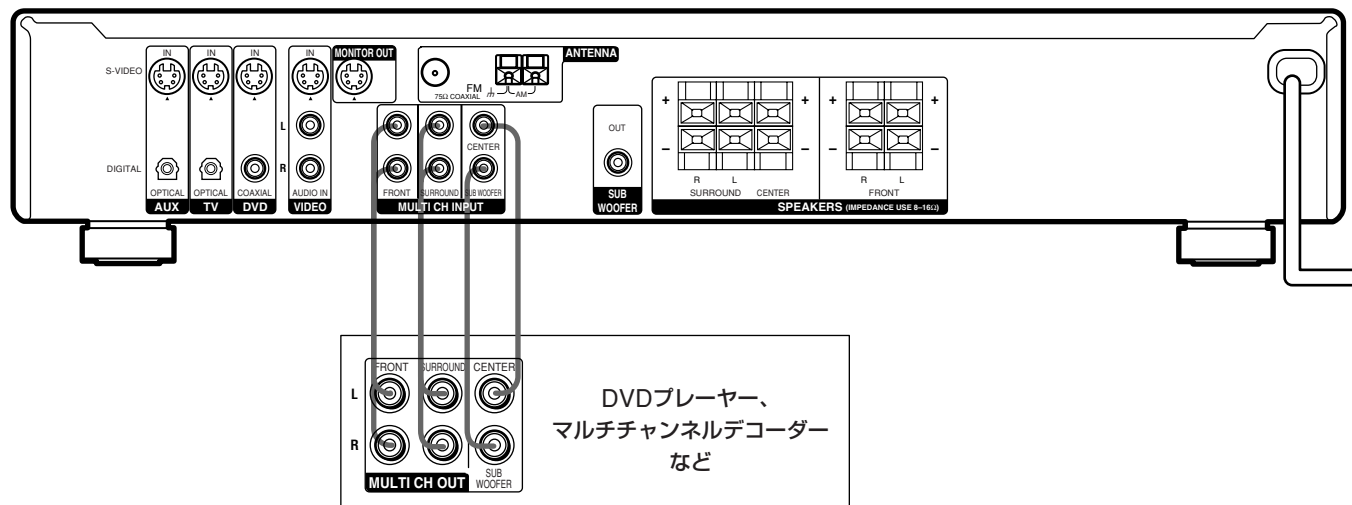


モノラルオーディオ接続コード（別売り）

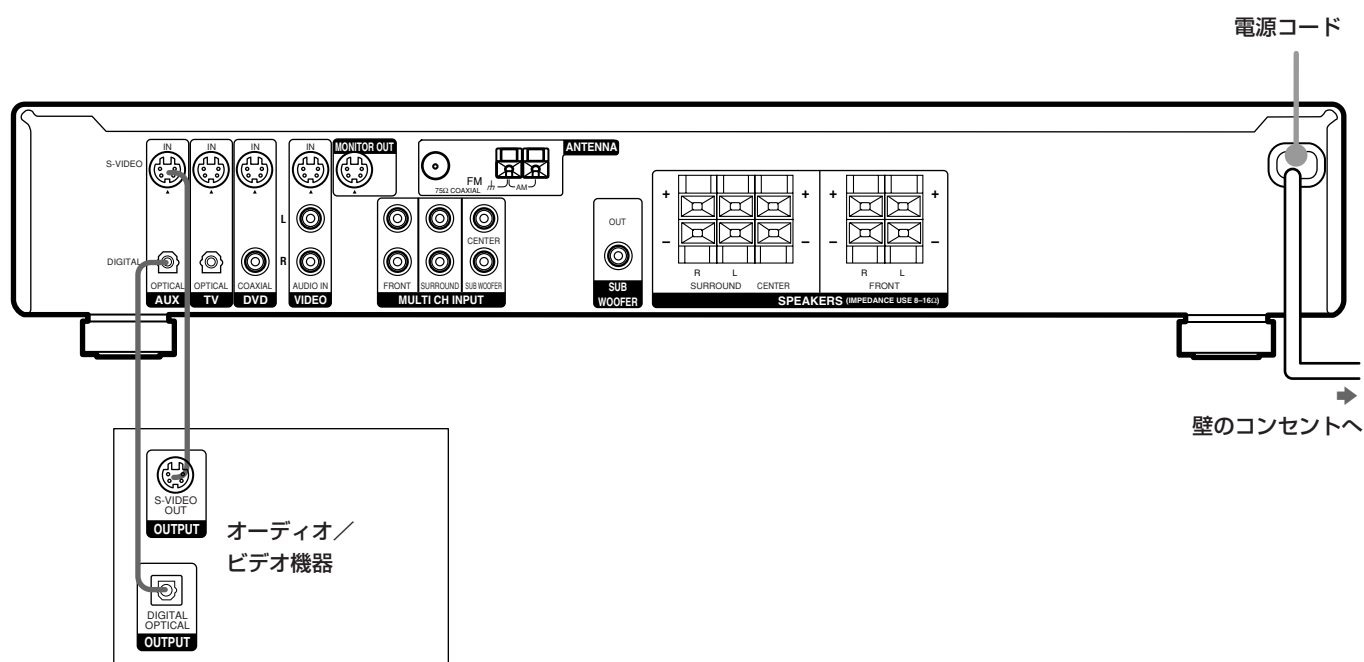
MULTI CH INPUT入力のCENTERとSUB WOOFER接続用に2本必要です。



 オーディオ接続コードを裂いて、1本をCENTER端子用、1本をSUB WOOFER端子用にも使用することもできます。



その他の接続をする



接続する

AUX端子を使って接続する場合は

単品のオーディオ／ビデオ機器をお持ちの場合

光デジタル接続ケーブル（別売り）を使って、CDプレーヤー、MDプレーヤー、ビデオゲーム機器などの光出力端子と本機のAUX OPTICAL端子をつなぎます。マルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。また、Sビデオ接続コード（別売り）を使って、ビデオ機器のSビデオ出力端子と本機のAUX S-VIDEO IN端子をつなぎます。

電源コードを接続する

スピーカーをつないでから（11ページ）、容易に手が届く壁のコンセントに電源コードをつないでください。

ビデオ機器の電源コードも、壁の電源コンセントにつなぎます。

ご注意

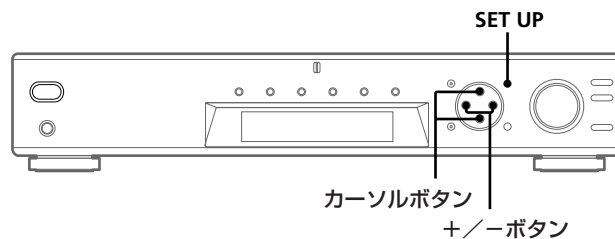
電源コードを約2週間抜いたままにすると、本機のメモリーはクリアされ、デモモードが始まります。

本機の電源について

- 本体またはリモコンのI/Oボタンを押して電源を切ると、本機はスタンバイ状態になります。電源を完全に切るには、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 本機は、電源コードを容易にコンセントから抜けるように設置してください。万一、本体から煙がでたり、変なにおいや音がしたら、電源コードをコンセントから抜いてください。

スピーカーの 接続と設定を する

この章ではスピーカーの接続のしかた、スピーカーの設置のしかた、マルチチャンネルのサラウンド効果を楽しむためのスピーカーの設定について説明します。



スピーカーの設定に使用するボタン

SET UPボタン：スピーカーの種類や距離を設定するモードに入るときに押します。

カーソル (H/V) ボタン：SET UPボタンを押した後、パラメーターを選びます。

+/-ボタン：各パラメーターの設定を調節します。

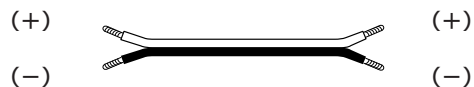
スピーカーを接続する

スピーカーをつなぐときは、必ず本体の電源を切ってください。

必要な接続コード

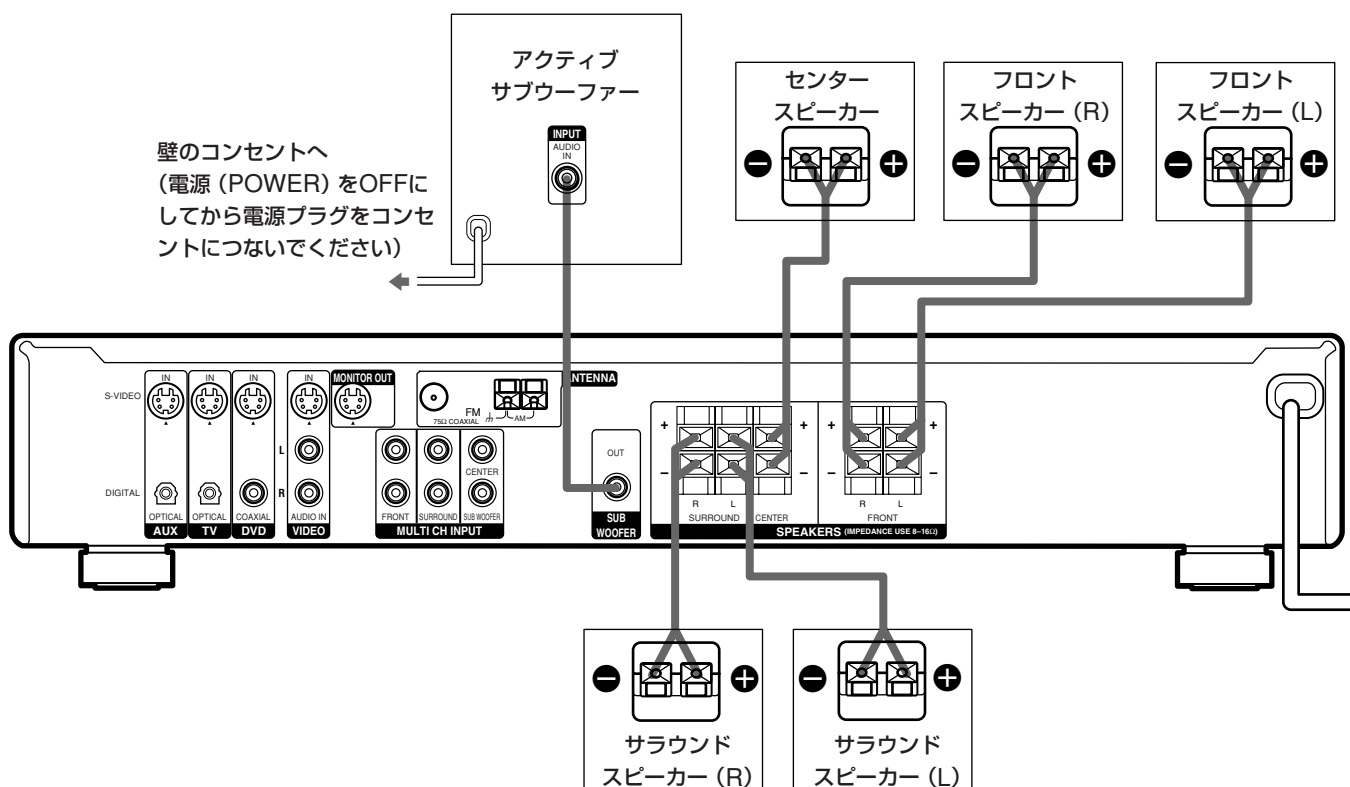
スピーカーコード (付属)

フロント、サラウンド、センタースピーカー用に各1本ずつ必要です。

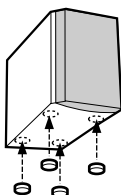


モノラルオーディオ接続コード (付属)

アクティブサブウーファー用に1本必要です。



🔊 スピーカーの振動を押さえるため、付属のスピーカーパッド
をスピーカーの底面に貼りつけてください



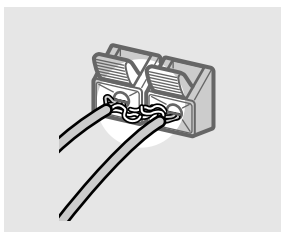
スピーカーを接続する

スピーカーのショートを防止する

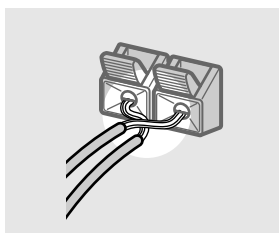
スピーカーをショートさせると本機にトラブルが生じます。ショートを防ぐために、スピーカーを接続するときは以下のことに十分注意してください。

それぞれのスピーカーコードの両端の被覆をはがし、他のコードの先端や本機の金属部分と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例



スピーカーコードの先端が他のコードと接触している。



スピーカーコードの先端が端子から大幅にはみ出し、他のコードと接触している。

すべての機器、スピーカーコードの接続が完了したら、電源コードをコンセントへ接続し、すべてのスピーカーが正しく接続されているかを確認するため、テストトーンを出します。テストトーンの出しかたは17ページをご覧ください。


テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、本機のディスプレイに表示されているスピーカー名と一致しないスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーがショートしている恐れがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。

スピーカーの損傷を防止する

本機の電源を切る前に音量を下げてください。次に電源を入れたときは、電源を切ったときと同じ音量になります。

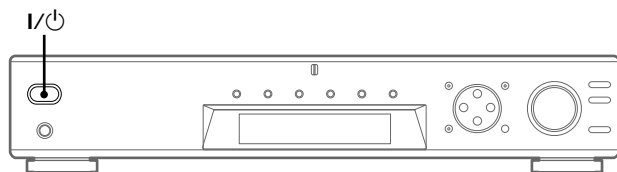
初期設定をする

スピーカーの接続が終わったら電源を入れ、メモリーをクリアします。そのあとスピーカーの設定および必要な初期設定を行います。

 設定中に音声の出力を確認するとき（音を出しながら設定するとき）は、接続を確認してください（18ページ）

本機のメモリーを消去する

初めて本機をご使用になるとき、またはメモリーを消すときは次の操作をしてください。以下の手順は電源を入れたときデモモードが働いているときは必要ありません。



1 電源を切る。

2 I/Oを5秒間押し続ける。

デモモードが始まります（3ページ）。次の項目がリセットまたはクリアされます。

- サウンドフィールドのパラメーターが初期化され、工場出荷時の状態になります。
- SET UPボタンを使って調節した設定が、工場出荷時の状態になります。
- プログラムソースや登録した放送局ごとに記憶されていたサウンドフィールドがクリアされます。
- 主音量が“MIN”になります。

デモモードを解除するには、デモモードのメッセージが表示されているあいだにI/Oを押して本機の電源を切り、再び電源を入れてください。

デモモードについて詳しくは、3ページをご覧ください。

初期設定をする

初めて本機をご使用になる前には、SET UPボタンを使ってパラメーターを調節します。設定できるパラメーターについては41ページをご覧ください。スピーカーの設定については14～17ページを、その他の調節については34ページをご覧ください。

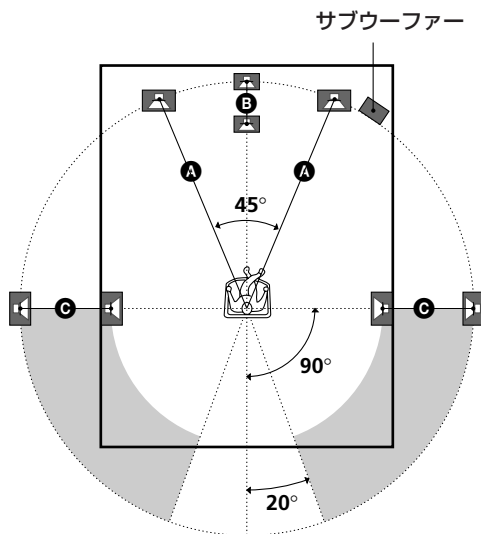
マルチチャンネルサラウンドの設定

サラウンド効果を十分に楽しむためには、各スピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離に設置してください (A)。

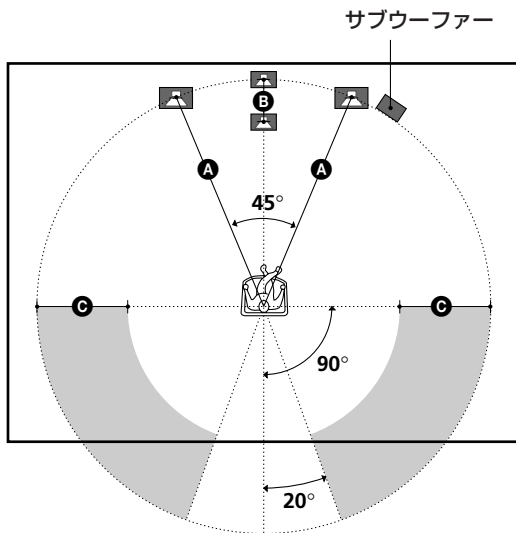
(ただし本機では、フロントスピーカーに対してセンタースピーカーを約1.5 m (B)、サラウンドスピーカーを約4.5 m (C) まで近づける設定が可能です。本機ではフロントスピーカーをリスニングポジションから1.0~12.0 mのところ に設定できます (A)。)

部屋の形に応じて、サラウンドスピーカーをリスニングポジションの横に置くことも後ろに置くこともできます。サブウーファーは、リスニングポジションからフロントスピーカーまでと等距離の床の上 (右または左) に置いてください。

サラウンドスピーカーを横に設置した場合



サラウンドスピーカーを背後に設置した場合



ご注意

センタースピーカーは、フロントスピーカーよりも離れた位置に置かないでください。

使用するスピーカーの設定をする

- 1 SET UPボタンを押す。
- 2 カーソルボタン (Δ/V) を押して、調節したいパラメーターを選ぶ。
- 3 +/−ボタンを押して、希望する設定を選ぶ。
選んだ設定は自動的に登録されます。
- 4 操作2と3を繰り返して、パラメーターをすべて設定する。

■ フロントスピーカーまでの距離 (L/R)

初期設定: DIST. 5.0 m

リスニングポジションからフロントスピーカー (左、右) までの距離を設定します (A)。

- フロントスピーカーの距離は1~12 mの範囲で、0.1 mごとに設定できます。
- 両方のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■ センタースピーカーまでの距離 (C)

初期設定: DIST. 5.0 m

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。

- センタースピーカーの距離はフロントスピーカーと同じ距離 (A) からリスニングポジションに1.5 m近い距離 (B) の範囲で、0.1 mごとに設定できます。
- センタースピーカーをフロントスピーカーより遠くに設置しないでください。

■ サラウンドスピーカーまでの距離 (SL, SR)

初期設定: DIST. 3.5 m

リスニングポジションからサラウンドスピーカー(左、右)までの距離を設定します。

- サラウンドスピーカーの距離はフロントスピーカーと同じ距離 (14ページ **A**) からリスニングポジションに4.5 m近い距離 (14ページ **C**) の範囲で、0.1 mごとに設定できます。
- サラウンドスピーカーをフロントスピーカーより遠い距離に設置しないでください。
- 両方のリアスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

💡 各スピーカーまでの距離の設定について

本機ではスピーカーの位置を距離で入力します。ただし、センタースピーカーはフロントスピーカーより遠くに設定できません。また、フロントスピーカーより1.5 m以上手前にも設定できません。サラウンド用のサラウンドスピーカーもフロントスピーカーより遠くに設定できません。また、4.5 m以上手前にも設定できません。これは、スピーカーの配置が適切でないと、サラウンドの効果を楽しむことができないからです。

次に使いこなしのヒントとして、スピーカーの配置を実際の距離より近く設定すると、音が出るタイミングが遅くなります。つまり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。

例えば、センタースピーカーを実際の距離より1~2 m短く設定すると、画面の中にいるような感じがすることがあります。サラウンドスピーカーの距離が近いために、サラウンド感が不足するときは、サラウンドスピーカーの距離を実際の距離より短く設定すると、音場感を大きくすることができます。

実際に聞きながら設定を変えてみると、サラウンド感が良くなることがありますので、お試しください。

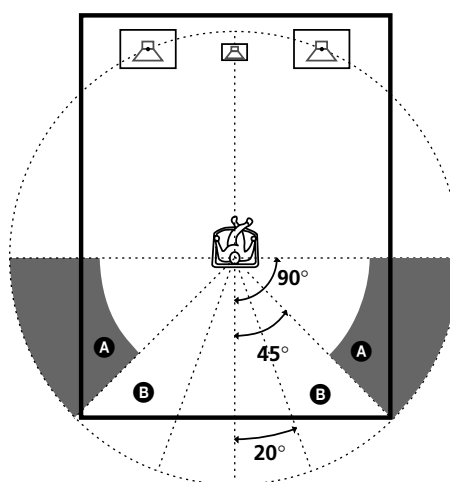
■ サラウンドスピーカーの位置 (SL, SR) *

初期設定: PL. BEHD.

このパラメーターは、「VIRTUAL」サウンドフィールドでデジタルシネマサウンドを楽しむために、サラウンドスピーカーの位置を設定するものです。下の図を参照してください。

- サラウンドスピーカーの位置が **A** の範囲にあれば「PL. SIDE」に設定します。
- サラウンドスピーカーの位置が **B** の範囲にあれば「PL. BEHD.」に設定します。

この設定は「VIRTUAL」サウンドフィールド時のみ有効です。



* これらのパラメーターは「サラウンドスピーカーの大きさ (SL, SR)」が「NO」に設定されていると、設定項目が表示されません。

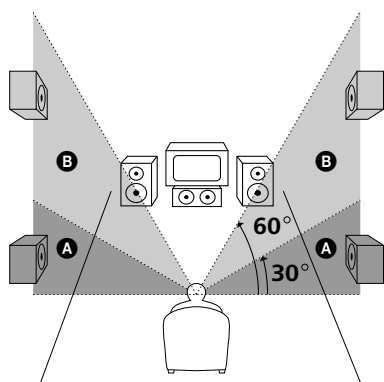
■ サラウンドスピーカーの高さ (SL, SR) *

初期設定: HGT. LOW

このパラメーターは、「VIRTUAL」サウンドフィールドでデジタルシネマサウンドを楽しむために、サラウンドスピーカーの高さを設定するものです。下の図を参照してください。

- サラウンドスピーカーの高さがAの範囲にあれば「HGT. LOW」に設定します。
- サラウンドスピーカーの高さがBの範囲にあれば「HGT. HIGH」に設定します。

この設定は「VIRTUAL」サウンドフィールド時のみ有効です。



* これらのパラメーターは「サラウンドスピーカーの大きさ (SL, SR)」が「NO」に設定されていると、設定項目が表示されません。

🔊 サラウンドスピーカーの位置について (PL, SIDE, PL.BEHIND)

「VIRTUAL」サウンドフィールド専用の設定です。

通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置は比較的重要ではありません。「VIRTUAL」サウンドフィールドでは、基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、サラウンドスピーカーの角度が相当開いていても比較的效果が薄れないようになっています。しかしスピーカーをリスニングポジションの真横に置くと、サラウンドスピーカーを「PL. SIDE」に設定しない場合には、効果がはっきりしなくなります。

ただし、リスニング環境には壁の反射などさまざまな影響があるため、スピーカーが高い位置にあるときは、サラウンドスピーカーがほぼ真横に有っても「PL. BEHD.」に設定したほうが良い場合があります。

したがって、「サラウンドスピーカーの位置」の記載には反しますが、実際に設定してみて、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりの良いほうを選択するのが良いと思います。迷ったら「PL. BEHD.」に設定し、距離やレベルを調節してより良い広がり感を見つけてください。

付属のスピーカー以外のスピーカーを使用する場合のみ、続けて以下の設定を行ってください。

本機ではスピーカーの大きさとサブウーファーの選択は、付属のスピーカーに合わせて、あらかじめMICRO SP. (Micro Satellite Speaker) に設定されています。スピーカーを変えたときは、NORM. SP. (Normal Speaker) を選び、スピーカーの大きさとサブウーファーの選択を設定してください。NORM. SP.を選ぶには、電源を切り、カーソルボタン (A) を押しながら再び電源を入れます。(MICRO SP. に戻す時は、同じ手順を行います。)

MICRO SP.を選んだ場合は、スピーカーの大きさとサブウーファーの選択は次のように設定されています。

スピーカー	設定
フロント	SMALL
センター	SMALL
サラウンド	SMALL
サブウーファー	S.W. YES

MICRO SP.を選んだ場合は、設定を変えることはできません。NORM. SP.を選んだときのみ、スピーカーの大きさなどを設定することができます。

■ フロントスピーカーの大きさ (FL, FR)

初期設定: LARGE

- 低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合は「LARGE」を選びます。
- 音が歪んだり、マルチチャンネルのサラウンド効果を使ってもサラウンド効果が不十分な場合は、「SMALL」を選んでください。低域変換回路が働き、サブウーファーからフロントスピーカーの低域成分が再生されます。
- フロントスピーカーを「SMALL」に設定した場合、センター、サラウンドスピーカーは、「NO」に設定されていない限り、自動的に「SMALL」に設定されます。

■ センタースピーカーの大きさ (CF)

初期設定: LARGE

- 低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合は「LARGE」を選びます。
フロントスピーカーを「SMALL」に設定している場合、センタースピーカーは「LARGE」に設定できません。
- 音が歪んだり、マルチチャンネルのサラウンド効果を使ってもサラウンド効果が不十分な場合は、「SMALL」を選んでください。低域変換回路が働き、フロントスピーカー (「LARGE」に設定されている場合) またはサブウーファーからセンタースピーカーの低域成分が再生されます。*1
- センタースピーカーをつながない場合は、「NO」を選びます。センタースピーカーの音はフロントスピーカーから出力されます。*2

■ サラウンドスピーカーの大きさ (SBL SBR)

初期設定：LARGE

- 低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合は「LARGE」を選びます。
フロントスピーカーを「SMALL」に設定している場合、サラウンドスピーカーは「LARGE」に設定できません。
- 音が歪んだり、マルチチャンネルのサラウンド効果を使ってもサラウンド効果が不十分な場合は、「SMALL」を選んでください。低域変換回路が働き、サブウーファーまたは「LARGE」と設定した他のスピーカーからサラウンドスピーカーの低域成分が再生されます。
- サラウンドスピーカーをつながない場合は、「NO」を選びます。*3

💡 上記の*1～*3 は従来のドルビープロロジックモードでは以下に相当します

*1 NORMAL

*2 PHANTOM

*3 3 STEREO

💡 SPEAKERの大きさについて (LARGE、SMALL)

各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」とは、内部的には「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」を決めることです。カットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。

しかし、低音にも指向性があるので、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、そのスピーカーに低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。一方、大型のスピーカーを使っている場合、低域をカットしたい場合は、「SMALL」に設定してください。

全体的な音量が足りないと感じるときは、すべてのスピーカーを「LARGE」に設定してください。

■ サブウーファーの選択 (SW)

初期設定：S.W. YES

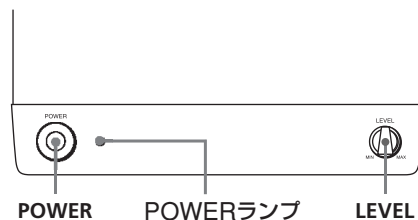
- サブウーファーをつないだ場合、「S.W. YES」を選びます。
- サブウーファーをつながない場合は「S.W. NO」を選びます。低域変換機能が働いて、LFE（低音増強）信号が他のスピーカーから再生されます。
- ドルビーデジタルの低域変換機能を十分楽しむためには、サブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高く設定することをお勧めします。

スピーカーの音量を調節する

リモコンを使ってリスニングポジションから各スピーカーの音量を調節します。

ご注意

スピーカーの音量を調節しやすくするため、本機は中心周波数 800 Hz のテストトーンを採用しています。



- 1 1/⏻を押して、本機の電源を入れる。
- 2 本体のMASTER VOLUMEを上げる（10～20程度）。
- 3 サブウーファーの電源を入れる。
- 4 サブウーファーのLEVELを上げる（ 程度）。
- 5 付属のリモコンのTEST TONEボタンを押す。
各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。
フロント（左）→ センター → フロント（右）→
サラウンド（右）→ サラウンド（左）→ サブウーファー
- 6 すべてのスピーカーのテストトーンが同じ大きさに聞こえるように、リスニングポジションからリモコンを使って各スピーカーの音量を調節する。
スピーカーの左右のバランスと音量を調節するには、リモコンのMENU </>を押して調節したいレベル/パラメーターを選び、MENU + / - ボタンで音量を調節します（26ページ）。
- 7 リモコンのTEST TONEボタンを押して、テストトーンを消す。

💡 全体の音量調節をするには

本機のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのMASTER VOL + / - で調節します。

ご注意

- MULTI CH IN機能が働いているときは、テストトーンは出ません。
- 調節しているあいだ、フロントバランス、サラウンドバランス、センターレベル、サラウンドレベル、サブウーファーレベルは表示窓に表示されます。
- 本機のLEVELメニューでも調節できますが（テストトーンが出ているあいだ、本機は自動的にLEVELメニューになります）、リモコンで実際にリスニングポジションから調節することをお勧めします。
- よりよい音質をお楽しみいただくために、サブウーファーの音量を上げすぎないでください。

🔊 それぞれのスピーカーのレベルについて

各スピーカーの音量は、テストトーン出力時だけではなく、CDやDVDの再生中でも調節することができます。テストトーンを使ってすべてのスピーカーの音量を合わせ、質の高いサラウンドサウンドの基本をつくっても、実際にソフトを再生しながら、さらに調整したほうがよい場合があります。これはほとんどのソフトでは、センターとサラウンドのチャンネルがフロントチャンネルよりもわずかに低いレベルで録音されているためです。

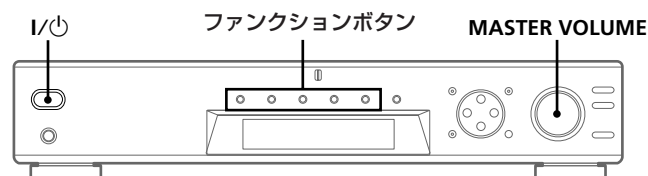
実際にマルチチャンネルで録音されたソフトを再生したとき、センタースピーカーとサラウンドスピーカーのレベルを上げてみると、フロントスピーカーとセンタースピーカーからのサウンドがよりよくブレンドし、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーからのサウンドがよりなめらかにつながることに気づくでしょう。センタースピーカーのレベルを約1 dB、サラウンドスピーカーのレベルを約1~2 dB上げるのが良いようです。

従って、実際にソフトを再生しながら、より広がり感やバランスがよくなるように調節するとよいでしょう。ほんの1 dBで驚くほど広がり感がかわることもあるのです。

本機をご使用になる前に

接続を確認する

すべての機器を接続し終えたら、次のようにして正しく接続できたか確認してください。



- 1 I/Oを押して、本機の電源を入れる。
- 2 ファンクションボタンを押して、接続した機器（プログラムソース。DVDプレーヤーなど）を選ぶ。
- 3 選んだ機器の電源を入れ、再生する。
- 4 MASTER VOLUMEつまみを回して、音量を調節する。

正しく再生されない場合は、本ページのチェック項目で問題がないかどうかご確認ください。

どの音源を選んでも、音が出ない

- ➔ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。
- ➔ MASTER VOLUMEが“MIN”の位置になっていないか確認する。
- ➔ スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。
- ➔ MUTINGボタンを押して、ミュート機能を解除する。
- ➔ ヘッドホンが接続されていないか確認する。ヘッドホンをつないでいるときは、スピーカーからは音は出ません。
- ➔ デモモードになっていないか確認する(3ページ)。

選んだ機器から音が出ない

- ➔ 選んだ機器のオーディオ入力端子に正しく接続されているか確認する。
- ➔ 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。

片方のフロントスピーカーから音が出ない

- ➔ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する(20ページ)。
ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。
両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。

詳しくは、「故障かな?と思ったら」(36ページ)をご覧ください。

各部の名称と基本操作

この章では各部の名称と基本機能、基本操作を説明します。

前面の各部の名称

① I/Oスイッチ

電源をオン／オフします。

② ファンクションボタン

使用したい機器を選ぶときに押します。

見たい、聞きたいソース	押すボタン
ビデオデッキ	VIDEO
DVD	DVD
デジタルサテライトチューナー	TV
ラジオ	TUNER FM/AM
オーディオ／ビデオ機器	AUX

見たい、聞きたいソースを選んだら、ソース側の機器の電源を入れ、再生してください。

- ビデオデッキかDVDプレーヤーを選んだときは、テレビの電源を入れてください。その後テレビのビデオ入力を選んでください。

③ MULTI CHANNEL DECODINGランプ

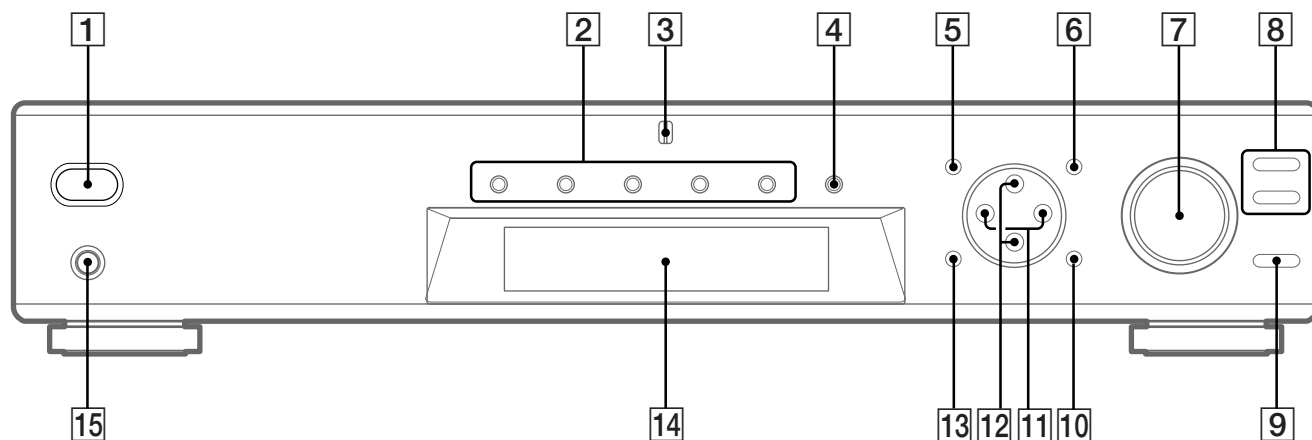
マルチチャンネルのフォーマットの信号を本機がデコードしているときランプが点灯します。

④ MULTI CH INボタン

SET UPボタンで設定した映像を見ながら（34ページ）、MULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声を楽しむときに押します。

- MULTI CH IN機能が働いているときは、サウンドフィールドとサラウンドパラメーターは働きません。

前面の各部の名称



⑤ TUNERボタン

放送局を登録するとき、登録した放送局を選ぶときに押します。

⑥ SET UPボタン

SET UPモードに入るときに押します。カーソルボタン (⑫) でパラメーターを選び、+/-ボタン (⑪) を使って設定します。

設定する項目	設定できること
スピーカーの設定	スピーカーの設定をします (14～17ページ)。
MULTI CH IN映像入力	MULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声を聞きながら見る映像入力を選びます (34ページ)。
TUNER映像入力	ラジオを聞きながら見る映像入力を選びます (34ページ)。

⑦ MASTER VOLUMEつまみ

音量を調節します。選んだ機器の電源を入れてから行います。

⑧ SOUND FIELD MODE +/-ボタン

サウンドフィールドを選ぶときに繰り返し押します (22ページ)。

⑨ MUTINGボタン

瞬時に音を消したいときに押します。ミュート中は表示窓に「MUTING」と表示されます。電源を切ったとき、または電源コードを抜いたときに解除されます。

⑩ MEMORY/ENTERボタン

受信した放送局を登録するときに押します。

⑪ +/-ボタン

さまざまなパラメーターを調節するとき、周波数を選ぶときに押します。

⑫ カーソルボタン (Λ/V)

調節するパラメーターを選ぶとき、登録した放送局を選ぶときなどに押します。

⑬ LEVEL/SURRボタン

レベルやサラウンドパラメーターを調節するときに押します (26ページ)。カーソルボタン (⑫) でパラメーターを選び、+/-ボタン (⑪) を使って設定します。

⑭ 表示窓

さまざまな情報が表示されます。

⑮ PHONES端子

ヘッドホンをつなぎます。

- ヘッドホンを接続すると、自動的にスピーカーからは音が出ません。

サラウンドを楽しむ

この章ではサラウンドを楽しむための設定のしかたを説明します。

ドルビーデジタルやDTSでエンコードされているソフトを再生すると、マルチチャンネルのサラウンド効果が楽しめます。

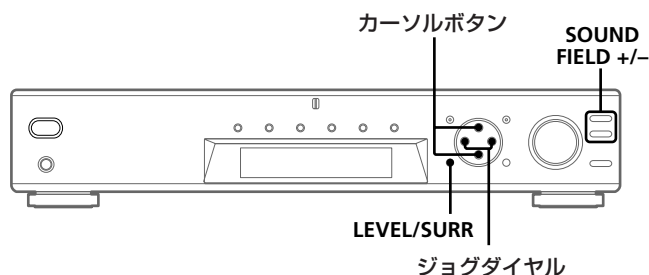
本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。また、サラウンドパラメーターを変えることによって、好みのサウンドフィールドを作ることができます。

本機はさまざまなサウンドフィールドを内蔵しています。CINEMAサウンドフィールドは、ドルビーデジタルなどのマルチチャンネルのサラウンド効果やドルビープロロジックでエンコードされている映画などのソフト（DVDやLDなど）を再生するときに適しています。単純にデコードするだけでなく、映画館特有の反射や残響を付加したモードがあります。

VIRTUALサウンドフィールドは、ソニーデジタルシネマサウンドの技術が集約されています。これらのサウンドフィールドは、実際に配置されたスピーカーから出る音で複数の仮想スピーカーを作成するような効果があります。

MUSICなどのサウンドフィールドは、オーディオソース（CDなど）やテレビ放送に向いています。このモードでは迫力のある音場効果を再現するために、ソースの信号に残響を加えています。あたかも、コンサートホールやスタジアムなどにいるような臨場感が味わえます。このジャンルは2チャンネルのソースやスポーツ番組、コンサート中継などのステレオ放送に適しています。

サウンドフィールドについてさらに詳しくは、23～24ページをご覧ください。



サラウンド効果を楽しむときに使用するボタン

LEVEL/SURRボタン：押してランプを点灯し、レベルパラメーターやサラウンドパラメーターを設定します。

カーソルボタン (H/V)：LEVEL/SURRボタンを押したあと、パラメーターを選びます。

+/-ボタン：パラメーターを調節するときに使います。

SOUND FIELD +/-ボタン：サウンドフィールドを選ぶときに押します。

サウンドフィールドを選ぶ

本機にあらかじめプログラムされているサウンドフィールドを使って、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。


SOUND FIELD +/-ボタンを繰り返し押して希望するサウンドフィールドを選ぶ。

現在のサウンドフィールドが表示窓に表示されます。


サウンドフィールドについて詳しくは23ページからをご覧ください。


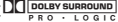
サラウンド効果を解除するには

A.F.D.または2CH ST.を選ぶ(24ページ)。

 **各プログラムソースで最後に選んだサウンドフィールドが本機にメモリーされています(サウンドフィールドリンク)**

プログラムソースを選ぶと、前回そのプログラムソースで選んだサウンドフィールドが自動的に設定されます。例えば、サウンドフィールドのHALLを選んで、DVDを聞き、いったんプログラムソースを変えて、再びDVDに戻るとHALLのサウンドフィールドで聞くことができます。

 **ドルビーデジタルまたはドルビーサラウンドでエンコードされたソフトは、パッケージを見ればわかります**

ドルビーデジタルでエンコードされているソフトには  マーク、ドルビーサラウンドでエンコードされているソフトは  マークがそれぞれ付いています。

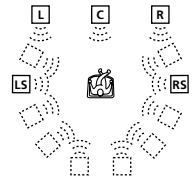
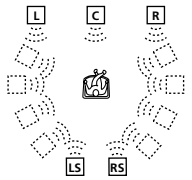
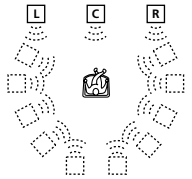
DCS (デジタルシネマサウンド)

DCS マークの付いたサウンドフィールドは、DCS技術を利用しています。

DCSは、ソニーが開発したホームシアター用サラウンド技術のコンセプト名です。ハリウッドに実在する映画編集用スタジオの音場を、DSP (Digital Signal Processor : デジタル信号処理) 技術により再現します。

映画監督が狙った「映像と音が一体となった演出」を余すところなく家庭で再現できるため、家庭における映画の楽しさ・迫力・芸術性が格段に向上します。

サラウンド効果を楽しむ前に、スピーカーの数と配置を設定します。詳しくは「マルチチャンネルサラウンドの設定」(14ページ) をご覧になり、スピーカーのパラメーターを設定してください。

サウンドフィールド	効果	ご注意
NORM.SURR. (NORMAL SURROUND)	マルチチャンネルのサウンド音声信号のソフトが録音された通りに再生されます。 2チャンネルの音声信号のソフトでは、サウンド効果を再現するためにドルビープロロジック処理されます。	
STUDIO A* DCS (CINEMA STUDIO A)	ソニーピクチャーズエンターテインメントの中で最も伝統のある「エディティングシアター」の音響特性を再現します。	標準的なモードです。どんな映画にも適しています。
STUDIO B* DCS (CINEMA STUDIO B)	ハリウッドの中でも最先端クラスの音響設備を備えたソニーピクチャーズエンターテインメントのミキシングスタジオの音響特性を再現します。	このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。
STUDIO C* DCS (CINEMA STUDIO C)	ソニーピクチャーズエンターテインメントの映画のBGMなどを収録するスタジオの音響特性を再現します。	このモードはミュージカルやオーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。
V.M.DIMENS* DCS (VIRTUAL MULTI DIMENSION)	3D立体音像処理により、実在する1組のサラウンドスピーカーより高い位置に仮想サラウンドスピーカーを再現します。このモードではリスニングポジションから約30°の高さに5組の仮想スピーカーを再現します。	<div> <div> <p>SIDE*</p>  </div> <div> <p>BEHIND*</p>  </div> <p>*15ページ参照</p> </div>
V.SEMI M.D.* DCS (VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION)	3D立体音像処理により、実在するサラウンドスピーカーを使わずにフロントスピーカーの音で仮想サラウンドスピーカーを再現します。このモードでは、リスニングポジションから約30°の高さに5組の仮想スピーカーを再現します。	
HALL	長方形のコンサートホールの音響を再現します。	アコースティックサウンドに適しています。
JAZZ (JAZZ CLUB)	ジャズクラブの音響を再現します。	
L.HOUSE (LIVE HOUSE)	300席あるライブハウスの音響を再現します。	ロックやポップミュージックに適しています。
GAME	ビデオゲームのソフトで、迫力のある音声が得られます。	音声がステレオのゲームソフトを使うときは、ゲーム機側をステレオモードにしてください。

*「VIRTUAL」サウンドフィールド：実在しない仮想スピーカーによるサウンドフィールドです。

ご注意

- ・仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- ・仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、サラウンドスピーカーからどんな音も直接は聞こえません。

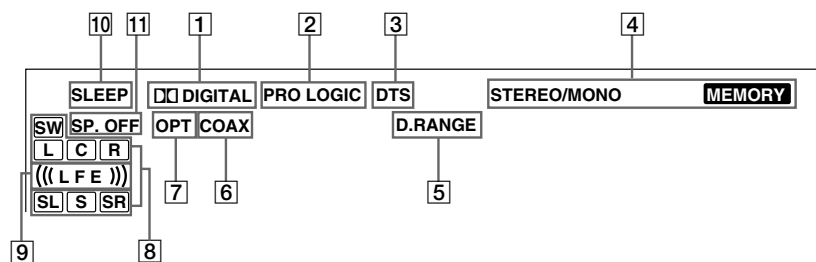
サウンドフィールドを選ぶ

その他のモード	効果	ご注意
A.F.D. (AUTO FORMAT DECODING)	自動的に入力された音声信号を識別し(ドルビーデジタル、DTS、標準的な2チャンネルステレオなど)、適切な処理をします。このモードは何の音場効果も加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。	ソフトそのものの音声の参考用にこのモードをご使用ください。さらにこのモードを使って、原音により忠実なソフトの音声を聞くときは、イコライザーをOFFにしてください。
2CH ST. (2 CHANNEL)	フロントL/Rスピーカーの2本から音を出します。標準的な2チャンネルステレオソースは、サウンドフィールドの回路を飛ばし、マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。	どんなソースもフロントL/Rスピーカーの2本で再生ができます。

ご注意

- スピーカー設定でNORM. SP.にしているとき(16ページ)、「2CH」を選ぶと、サブウーファーから音は出ません。フロントL/Rスピーカー、サブウーファーを使って2チャンネルステレオソースを再生するには「A.F.D.」を選びます。
- MICRO SP.を選んでいるときは、低音変換回路が自動的に働き、サブウーファーから低域成分が再生されます。

マルチチャンネルサラウンド表示の見かた



- 1** **DIGITAL**
 ドルビーデジタル記録された信号をデコードしているときに点灯します。
- 2** **PRO LOGIC**
 センターやサラウンドチャンネルの信号を出力するために、2チャンネル信号をプロロジック処理しているときに点灯します。ただし、センターとサラウンドスピーカーが「NO」と設定されているとき、A.F.D.またはNORMAL SURROUNDのサウンドフィールドが選ばれているときは点灯しません。
- 3** **DTS**
 DTS信号が入力されたときに点灯します。
- 4** **チューナー表示**
 ラジオを使っているときに点灯します。詳しくは29～32ページをご覧ください。
- 5** **D.RANGE**
 ダイナミックレンジの圧縮がオンになっているときに点灯します。詳しくは27ページをご覧ください。
- 6** **COAX**
 デジタル信号がCOAXIAL端子から入力されたときに点灯します。
- 7** **OPT**
 デジタル信号がOPTICAL端子から入力されたときに点灯します。
- 8** **再生チャンネル表示**
 現在本機が出力しているチャンネルを表示します。
 L: フロント左 R: フロント右
 C: センター (モノラル) LS: サラウンド左
 RS: サラウンド右
 S: サラウンド (モノラル／プロロジック処理されたリア成分)
 文字の回りのワクが点灯し、再生に使われているスピーカーを表示します。
- 9** **(LFE)**
 再生中のディスクにLFE (低音増強) のチャンネルが存在しているとき、または実際にLFE信号の音が再生されているときに点灯します。
- 10** **SLEEP**
 スリープタイマーを使っているときに点灯します。
- 11** **SP.OFF**
 ヘッドホンをつないでいるときに点灯します。

サウンドフィールドを加工する

サラウンドパラメーターとフロント、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーのイコライザーを調節することにより、お好みに応じてサウンドフィールドを加工することができます。

1度調節したサウンドフィールドは登録され、またいつでも変更ができます。

サウンドフィールドのモードによって調節できるパラメーターは異なります。詳しくは28ページの表をご覧ください。

マルチチャンネルサラウンド効果を利用するには

サウンドフィールドを加工する前に、お手持ちのスピーカーを配置し、「マルチチャンネルサラウンドの設定」(14ページ)をご覧ください。

レベルパラメーターを調節する

LEVELメニューでは各スピーカーのバランスと音量を調節します。この設定はすべてのサウンドフィールドに適用されます。全てのレベルパラメーターはリモコンで調節できます。

- 1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされているソースを再生する。
- 2 LEVEL/SURRボタンを押す。
LEVEL/SURRボタンが点灯し、パラメーターが表示されます。
- 3 カーソルボタン(△または▽)を押して、調節したいパラメーターを選ぶ。
- 4 +/−ボタンを押して、調節したい設定を選ぶ。
選んだ設定は自動的に登録されます。

フロントバランス (FRONT BALANCE)

初期設定：BALANCE

左右のフロントスピーカーのバランスを調節します。

- ±8 dBの範囲内で1 dBごとに調節できます。
- 付属のリモコンを使っても調節できます。詳しくは「スピーカーの音量を調節する」(17ページ)をご覧ください。

サラウンドバランス (SURROUND BALANCE)

初期設定：BALANCE

左右のサラウンドスピーカーのバランスを調節します。

- ±8 dBの範囲内で1 dBごとに調節できます。
- 付属のリモコンを使っても調節できます。詳しくは「スピーカーの音量を調節する」(17ページ)をご覧ください。

センターレベル (CENTER LEVEL)

初期設定：CTR 0 dB

センタースピーカーのレベルを調節します。

- ±10 dBの範囲内で1 dBごとに調節できます。
- 付属のリモコンを使っても調節できます。詳しくは「スピーカーの音量を調節する」(17ページ)をご覧ください。

サラウンドレベル (SURROUND LEVEL)

初期設定：SURR 0 dB

左右のサラウンドスピーカーのレベルを調節します。

- ±10 dBの範囲内で1 dBごとに調節できます。
- 付属のリモコンを使っても調節できます。詳しくは「スピーカーの音量を調節する」(17ページ)をご覧ください。

サブウーファーレベル (SUBWOOFER LEVEL)

初期設定：S.W. 0 dB

サブウーファーのレベルを調節します。

- ±10 dBの範囲内で1 dBごとに調節できます。

LFE (低音増強) ミックスレベル (LFE MIX LEVEL)

初期設定：L.F.E. 0 dB

このパラメーターは、サブウーファーからのLFE (低音増強) チャンネルの出力レベルを弱くします。このとき、フロント、センター、サラウンドチャンネルからドルビーデジタル低音再指示回路を通じてサブウーファーに送られる低音のレベルは変わりません。

- −20 dBから0 dB (ラインレベル) の範囲内で1 dBごとに調節できます。0 dBではレコーディングエンジニアによって定められたミックスレベルでLFE信号が出力されません。
- OFFを選ぶとサブウーファーからLFEチャンネルの音がミュートされます。このとき、フロント、センター、サラウンドスピーカーの低音は各スピーカーの設置と設定のしかたによってサブウーファーから出力されます(15ページ)。

ダイナミックレンジの圧縮 (D. RANGE)

初期設定：COMP. OFF

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。夜遅く、小さい音量で映画を見たいときに便利です。

- COMP. OFFでは、ダイナミックレンジの圧縮はありません。
- COMP. STDでは、レコーディングエンジニアが意図したようなダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
- COMP. 0.1～COMP. 0.9 では、ダイナミックレンジを細かい単位で調節できるので、好みの音を再現します。
- COMP. MAXでは、ダイナミックレンジを極端に狭くします。

ご注意

ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタル以外のソースには動きません。

🔊 ダイナミックレンジの圧縮について

これはダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮するものです。COMP. STDが本来の圧縮値ですが、控えめな場合があります。したがって、ダイナミックレンジを圧縮したいときにCOMP. 0.1～COMP. 0.9の設定ではあまり効果が感じられません。

そこで、COMP. MAXをおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、夜間のAV鑑賞などに使えます。アナログのリミッターと違って、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているので、自然な圧縮になります。

サラウンドパラメーターを調節する

現在選ばれているモードのパラメーターをSURRメニューで変更することができます。変更されたパラメーターは各モードごとに登録されます。

- 1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされているソースを再生する。
- 2 LEVEL/SURRボタンを押す。
LEVEL/SURRボタンが点灯し、パラメーターが表示されます。
- 3 カーソルボタン (ハまたはV) を押して、調節したいパラメーターを選ぶ。
- 4 +/−ボタンを押して、調節したい設定を選ぶ。
選んだ設定は自動的に登録されます。

エフェクトレベル (EFFECT)

初期設定：(サウンドフィールドのモードによる)

値を上げるほど、サラウンド効果は大きくなります。

ウォールタイプ (WALL)

初期設定：中間 (0)

カーテンのように柔らかい材質に音が反射すると、高い周波数の音が聞こえにくくなります。固い壁では音が反射しやすく、反射した音の周波数特性にはあまり影響を与えません。このパラメーターでは、高い周波数のレベルを調節して、柔らかい材質の壁 (S)、または固い材質の壁 (H) の部屋で音を聞くような効果を作り出します。

中間を選ぶと、木の材質の壁の部屋で音を聞くような効果を作り出します。

- このパラメーターは±8の範囲内で17段階で調節できます。

リバーブ (REVERB)

初期設定：中間 (0)

音は左右の壁や天井、床などに何回も反射してから、我々の耳に伝わります。広い部屋では、狭い部屋より、音が反射するのに時間がかかります。

このパラメーターでは、初期反射音の間隔を調節して、広い部屋で音を聞くような効果 (L)、または狭い部屋で音を聞くような効果 (S) を作り出します。

- このパラメーターは±8の範囲内で17段階で調節できます。
- 中間 (0) では調節が必要無い、標準的な広さの部屋を意味します。

調節したサウンドフィールドをお買い上げ時の設定に戻す

- 1 電源が入っている場合は、I/IIスイッチを押して電源を切る。
- 2 SOUND FIELD +ボタンを押しながら、I/IIスイッチを押す。
表示窓に「S.F. CLR.」が表示され、すべてのサウンドフィールドが初期値に戻ります。

サウンドフィールドを加工する

調節できるパラメーター

登録されたLEVELパラメーターは全てのサウンドフィールドに共通に適用されます。登録されたSURRのパラメーターは、サウンドフィールドごとに記憶されます。

	<	LEVEL						>
	FRONT BAL.	SURR BAL.	CENTER LEVEL	SURR LEVEL	SUB WOOFER LEVEL	LFE MIX	D.RANGE COMP.	
2CH	●					●	●	
A.F.D.	●	●	●	●	●	●	●	
NORM.SURR.	●	●	●	●	●	●	●	
STUDIO A	●	●	●	●	●	●	●	
STUDIO B	●	●	●	●	●	●	●	
STUDIO C	●	●	●	●	●	●	●	
V.M.DIMENS.	●	●	●	●	●	●	●	
V.SEMI M.D.	●		●		●	●	●	
HALL	●	●	●	●	●	●	●	
JAZZ	●	●	●	●	●	●	●	
L.HOUSE	●	●	●	●	●	●	●	
GAME	●	●	●	●	●	●	●	
MULTI CH IN	●	●	●	●	●	●	●	

	<	SURR		>
	EFFECT LEVEL	WALL TYPE	REVERB TIME	
2CH				
A.F.D.				
NORM.SURR.				
STUDIO A	●			
STUDIO B	●			
STUDIO C	●			
V.M.DIMENS.				
V.SEMI M.D.				
HALL	●	●	●	
JAZZ	●	●	●	
L.HOUSE	●	●	●	
GAME	●	●	●	
MULTI CH IN				

FM／AM放送 を聞く

この章ではFM／AM放送の受信のしかたや放送局の登録のしかたを説明します。

次のような方法で本機でラジオを受信できます。

手動受信

付属のリモコンにある数字ボタンを使って、希望する周波数の放送局を直接受信できます（30ページ）。

自動受信

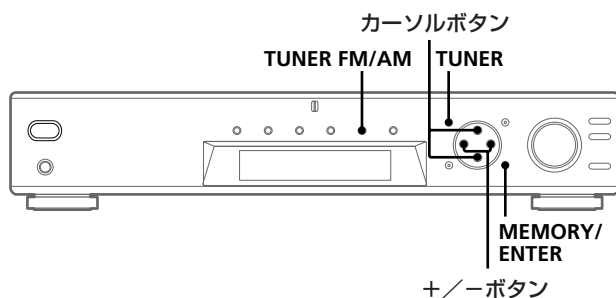
希望する放送局の周波数がわからないときは、本機が受信可能な放送局を探して自動的に受信します（31ページ）。

プリセットチューニング

手動受信や自動受信をした後、放送局を本機に登録することができます（31ページ）。登録後はリモコンを使って2ケタの番号を入力するだけで、簡単に放送局を呼び出せます（32ページ）。FM局とAM局を合わせて30局まで登録できます。

ラジオを使う前に次のことを確認してください。

- FM／AMアンテナを本機と接続する（5ページ）。



放送局を受信するとき使用するボタン

TUNER FM/AMボタン：FMまたはAMバンドを選ぶときに押します。

TUNERボタン：登録した放送局を受信するときに押します。

+/-ボタン：受信できる放送局を探すときに押します。

カーソルボタン (Λ/V)：登録した放送局を探すときに押します。

MEMORY/ENTERボタン：受信した放送局を登録するときに押します。

💡 **FMステレオ放送の受信状態が良くないときは**
TUNERボタンを押すと、モノラル受信とステレオ受信を切り換えることができます。

放送局を受信する（手動受信）

以下の操作には、付属のリモコンをお使いください。
使用するボタンについて詳しくは42ページをご覧ください。

- 1 リモコンのTUNERボタンを押す。
- 2 FM/AMボタンを押して、FMまたはAMバンドを選ぶ。
- 3 D.TUNINGボタンを押す。
- 4 数字ボタンを押して、周波数を入力する。

例1：FM 85.50 MHz

⑧ → ⑤ → ⑤ → ⑦

例2：AM 1350 kHz

① → ③ → ⑤ → ⑦

周波数を受信できないときや入力した数字が点滅しているときは

正しい周波数を入力したか確認してください。

誤って入力した場合は手順3、4をやり直してください。

それでも入力した数字が点滅する場合は、その周波数がお住まいの地域で受信できないことを意味します。

放送局を受信する（自動受信）

希望する放送局の周波数がわからないときは、本機が受信可能な放送局を探して自動的に受信します。

1 TUNER FM/AMボタンを押して、FMまたはAMバンドを選ぶ。


最後に受信した放送局が受信されます。


2 +ボタンまたは-ボタンを押す。

+ボタンを押すと低い周波数から高い周波数へ選局します。－ボタンを押すと高い周波数から低い周波数へ選局します。放送局を受信すると自動的に止まります。放送局を受信すると自動的に止まります。

FMまたはAMバンドの最後まで周波数を探したら別のバンドを同じ方向に選局していきます。

3 引き続き選局するには、TUNING +ボタンまたはTUNING -ボタンを押す。

 自動受信中に+または-ボタンを押すと自動受信は停止します。

 自動受信で受信したあと、1秒以内に+または-ボタンを押すと周波数が1ステップ分変わります。

放送局を手動で登録する

カーソルボタンを使って受信したい放送局の周波数を直接入力し、本機に登録することができます。

1 TUNER FM/AMボタンを押して、FMまたはAMバンドを選ぶ。

2 MEMORY/ENTERボタンを押す。

機器は手動登録モードに入ります。現在の周波数が表示窓に表示され、プリセット番号が点滅します。「PUSH」と「ENTER」が点滅する前に手順3～5を行ってください。

3 +/－ボタンを押して、放送局を受信する。

放送局を受信する前に「PUSH」と「ENTER」が点滅した場合は、手順2から繰り返してください。

4 カーソルボタン（Λ/V）を押して、プリセット番号を選ぶ。

プリセット番号を選ぶ前に「PUSH」と「ENTER」が点滅した場合は、手順2から繰り返してください。

5 MEMORY/ENTERボタンを押す。

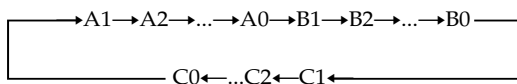
6 手順2～5を繰り返して、他の放送局を登録する。

放送局を自動で登録する

希望する放送局の周波数がわからないときは、本機が受信可能な放送局を探し、自動的に受信して登録します。

MEMORY/ENTERボタンを押したまま、I/⏻ボタンを押す。

表示窓に「AUTO MEMORY START」と表示されます。FMバンドの低い周波数から高い周波数へ選局したあとで、AMバンドの高い周波数から低い周波数へ選局します。放送局を受信すると自動的に止まり、以下の順に登録します。



全ての放送局を受信する前にメモリーがいっぱいになると、「MEMORY FULL」と表示され、受信を中止します。

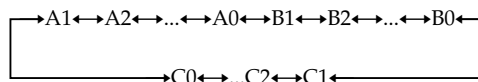
自動登録をやめるには
I/⏻ボタンを押す。

登録した放送局を選局する

登録した放送局は、リモコンを使って2ケタの番号を入力するだけで呼び出せます。を受信するには次の2通りの方法があります。FM局とAM局を合わせて30局まで登録できます。登録したすべての放送局を選局することができます。

登録した放送局を受信するには

- 1 TUNERボタンを押す。
- 2 カーソルボタン (Λ/V) を押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。
ボタンを押すごとに下記のように登録した放送局を探していきます。

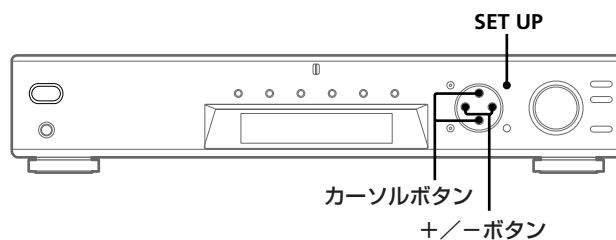


登録した番号を使って選局するには

以下の操作には、付属のリモコンをお使いください。使用するボタンについて詳しくは42ページをご覧ください。

- 1 TUNERボタンを押す。
最後に受信した放送局が受信されます。
- 2 SHIFTボタンを押してメモリーページ (A、BまたはC) を選び、数字ボタンで、聞きたい放送局のプリセット番号を入力する。

その他の操作



この章で使用するボタン

SET UPボタン：SET UPモードに入るときに押します。

カーソル (H/V) ボタン：SET UPボタンを押した後、パラメーターを選びます。

+／-ボタン：各パラメーターの設定を調節します。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経つと、本機の電源を自動的にオフにすることができます。

電源が入っているときに、リモコンのSLEEPボタンを押す。SLEEPボタンを押すたびに、時間表示が次のように切り換わります。

→ 2-00-00 → 1-30-00 → 1-00-00 → 0-30-00 → OFF

時間を指定した後、表示窓が暗くなります。

💡 時間を細かく設定するには

はじめにリモコンのSLEEPボタンを押し、次に本機のカーソルボタン（ \wedge / \vee ）で時間を指定します。1分から5時間までは1分間隔で、1分以内は1秒間隔で時間を変更できます。最大5時間まで設定できます。

💡 本機の電源がオフする前に残り時間を確認するには

リモコンのSLEEPボタンを押します。表示窓に残り時間が表示されます。

SET UPボタンを使った設定

SET UPボタンを使って次の調節ができます。

- 1 SET UPボタンを押す。
- 2 カーソルボタン（ \wedge / \vee ）を押して、調節したいパラメーターを選ぶ。
MULTI VI.またはTUNER VI.を選ぶと、M[XXX]またはT[XXX]が2秒間表示されます。
- 3 $+$ / $-$ ボタンを押して、希望する設定を選ぶ。
選んだ設定は自動的に登録されます。
- 4 操作2と3を繰り返して、パラメーターをすべて設定する。

■ MULTI CH IN映像入力の選択

初期設定：DVD

MULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声を聞きながら見る映像入力を選びます。

■ TUNER映像入力の選択

初期設定：OFF

ラジオを聞きながら見る映像入力を選びます。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキから近い所。

(テレビやビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。また、「接続を確認する」(18ページ)をご覧ください。もう1度接続を確認してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーご相談窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

音が出ない、ほとんど聞こえない

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 正しい機器が選ばれているか確認する。
- MUTINGボタンを押して、ミュート機能を解除する。
- 本機の温度が上昇しすぎたため、保護回路が働いている(表示窓に「OVERHEAT」と表示されます)。本機の電源を切り、しばらくたったらもう1度電源を入れる。
- 保護回路が働いている(表示窓に「PROTECT」と表示されます)。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、20秒以上あとでもう1度電源を入れる。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- LEVELメニューを調節する。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 接続コードがトランスやモーターから離れているか、蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。
- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

センタースピーカーの音が聞こえない

- サウンドフィールドがオンになっているか確認する(SOUND FIELD MODE + / - ボタンを押す)。
- CINEMAまたはVIRTUALが付くサウンドフィールドを選ぶ(23ページ)。
- スピーカーの音量を調節する(17ページ)。
- センタースピーカーの大きさがSMALLまたはLARGEに正しく設定されているか確認する(16ページ)。

サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない

- サウンドフィールドがオンになっているか確認する(SOUND FIELD MODE + / - ボタンを押す)。
- CINEMAまたはVIRTUALが付くサウンドフィールドを選ぶ(23ページ)。
- スピーカーの音量を調節する(17ページ)。
- サラウンドスピーカーの大きさがSMALLまたはLARGEに正しく設定されているか確認する(17ページ)。

サブウーファーの音が聞こえない

- スピーカー設定でNORM. SP.にしているときは、サブウーファーがS.W. YESに設定されているか確認する(17ページ)。
- 2CH ST.のサウンドフィールドが選ばれていないか確認する(24ページ)。

放送局が受信できない

- アンテナが正しく接続されているか確認する。
アンテナの向きなどを調節する。
屋外アンテナを使用する。
- 自動受信をしている場合、受信状態が悪い。手動受信する。
- プリセットチューニングしている場合、何も登録されていない、または登録した放送局を消してしまった。登録する(31~32ページ)。

表示窓に「PCM--kHz」と表示される。

- サンプリング周波数が48 kHz以上のデジタル信号が入力された。接続した機器側でサンプリング周波数が48 kHzになるように設定する。


サラウンド効果が得られない

- サウンドフィールドがオンになっているか確認する(SOUND FIELD MODE + / - ボタンを押す)。

テレビ画面が出ない、または明瞭でない

- 適切なファンクションを選ぶ。
- テレビの入力モードを確認する。

リモコンで操作できない

- 本機のリモコン受光部に向けて操作する。
- リモコンと本機の間にある障害物を取り除く。
- リモコンの乾電池を交換する。
- リモコンで正しいファンクションを選んだか確認する。
- リモコンがテレビのみを操作するよう設定されている場合、テレビ以外の機器を選択してから本機や他の機器を操作する。

本機のメモリーをクリアするための参照ページ

消去するメモリー	参照ページ
全てのメモリー	13ページ
加工したサウンドフィールド	27ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな?と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-SL7
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：
(8Ω、1kHz、JEITA)
100 W + 100 W
サラウンドモード：
(8Ω、1kHz、JEITA)
フロント部：
100 W + 100 W
センター部：
100 W
サラウンド部：
100 W + 100 W

周波数特性

MICRO SP: 150 Hz~20 kHz
-3/+0.5 dB
150 Hz(6 dB/oct)
(Low cut filter)
NORMAL SP: 20 Hz~20 kHz
± 0.5 dB

入力 (アナログ)

入力感度: 250 mV
入力インピーダンス:
50 kΩ
S/N比^{a)}: 80 dB
(A, 250 mV^{b)})

a) INPUT SHORT

b) Weight network, input level

入力 (デジタル)

DVD (COAXIAL):
入力感度: -
入力インピーダンス:
75 Ω
S/N比: 96 dB
(A, 20 kHz LPF)

TV、AUX (OPTICAL):

入力感度: -
入力インピーダンス: -
S/N比: 96 dB
(A, 20 kHz LPF)

出力

FRONT L/R、CENTER、
SURROUND L/R、SUB
WOOFER:
出力: 2 V
出力インピーダンス:
1 kΩ

映像入力

Sビデオ ルミナンス(Y):
1 Vp-p, 75 Ω
クロマ(C):
0.286 Vp-p, 75 Ω

映像出力

Sビデオ ルミナンス(Y):
1 Vp-p, 75 Ω
クロマ(C):
0.286 Vp-p, 75 Ω

FMチューナー部

受信周波数 76.0~90.0 MHz

アンテナ 75 Ω、不平衡型

S/N 76 dB(モノ)、
70 dB(ステレオ)

感度 モノ:
新IHF: 18.3 dBf
IHF: 2.3 μV/75 Ω
ステレオ:
新IHF: 38.3 dBf
IHF: 22.5 μV/75 Ω

実用感度 新IHF: 11.2 dBf
IHF: 1 μV/75 Ω

高調波ひずみ率

0.3 % (モノ)、
0.5 % (ステレオ)

ステレオ分離度

45 dB(1 kHz)

周波数特性 30 Hz~15 kHz
(+0.5/-2 dB)

実効選択度 60 dB
(400 kHz)

AMチューナー部

受信周波数 531 kHz~1,602 kHz

アンテナ ループアンテナ

実用感度 50 dB/m(999 kHz)

S/N 54 dB(50 mV/m)

高調波ひずみ率

0.5 % (50 mV/m、
400 Hz)

電源・その他

電源 AC 100 V、
50/60 Hz

消費電力 98 W
(スタンバイ時 1.5 W)

最大外形寸法 430 x 83 x 289 mm
(幅/高さ/奥行き)

質量 約 3.1 kg

付属品 (4ページをご覧ください)

スピーカー部

SS-MSP1 (フロントおよびセンター、サラウンドスピーカー)

形式： フルレンジ、バスレフ型、
防磁型

使用スピーカー：
8 cm、コーン型

定型インピーダンス：
8 Ω

最大入力 (JEITA)：
100 W

出力音圧レベル：
84 dB (1 W、1 m)

実効周波数帯域：
160 Hz～20,000 Hz

最大外形寸法：
92 x 133 x 115 mm
(幅／高さ／奥行き)

質量： 1 kg

SA-WMSP1 (サブウーファー)

形式： バスレフ型、防磁型

使用スピーカー(ウーファー)：
20 cm、コーン型

実用最大出力：
50 W
(JEITA、8 Ω 負荷)

周波数帯域：
28 Hz～200 Hz

カットオフ周波数：
150 Hz

入力： LINE IN(ピンジャック)

電源： AC 100 V、
50/60Hz

消費電力： 40 W

最大外形寸法：
270 x 325 x 385 mm
(幅／高さ／奥行き)

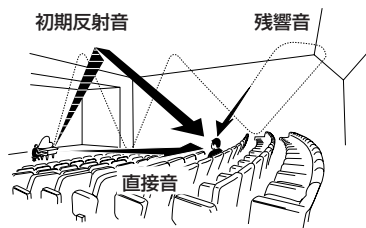
質量： 約 10 kg

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

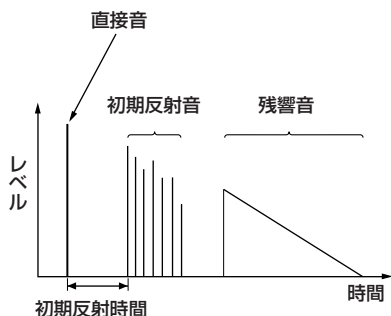
サラウンドサウンド

直接音、初期反射音および残響音の3要素で構成されているサラウンドです。音を聞いている場所の音響効果は、この3つの音の要素の間こえかたによります。これらの音の要素で、コンサートホールの広さや環境を実際に感じるができます。

・音の種類



・リアスピーカーからのサウンドの遷移



ドルビーデジタル

ドルビープロロジックをさらに発展させ劇場用に開発された映画の音のフォーマットです。リア出力をステレオ化した上で周波数帯域を拡大、さらに低域を受け持つサブウーファー出力も独立して設けてあります（サブウーファーの出力は重低音効果が必要なときだけ動作するので0.1 chと数えられるため、「5.1 ch」と呼ばれます）。あらかじめ5.1チャンネルが分離された状態で記録されており、チャンネル間のセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特長を持っています。

ドルビープロロジックサラウンド

ドルビーサラウンドのデコードシステムの1つで、2チャンネルに記録されている音を4チャンネルにデコードして再生します。よって従来のドルビーサラウンドより音の動きや定位が自然に再生されます。この効果を十分に楽しむためには、フロントスピーカー1組の他に、センタースピーカーが1本と、リアスピーカーが1組必要です。リアスピーカーからの出力はモノラルになります。

LEVEL/SURRボタン、SET UPボタンを使った設定

LEVEL/SURRボタン、SET UPボタン、カーソルボタン、+/-ボタンを使って、いろいろな設定ができます。
詳しくは、下記の表をご覧ください。

押す	カーソルボタン(ハ/V)を押して選ぶ	+/-ボタンを押して選ぶ	参照ページ
LEVEL/SURRボタン	FRONT BALANCE	L8~R8 (1段階毎)	26
	SURR BALANCE	L8~R8 (1段階毎)	
	CENTER LEVEL	-10 dB~+10 dB (1 dB単位)	
	SURR LEVEL	-10 dB~+10 dB (1 dB単位)	
	SUB WOOFER LEVEL	-10 dB~+10 dB (1 dB単位)	
	LFE MIX LEVEL	OFF, -20 dB~0 dB (1 dB単位)	
	DYNAMIC RANGE COMP	OFF, 0.1~0.9 (0.1単位), STD, MAX	
	EFFECT LEVEL	サウンドフィールドによる (16段階)	
	WALL TYPE	S (8~1), MID, H (1~8) (1段階毎)	
	REVERBERATION TYPE	S (8~1), MID, L (1~8) (1段階毎)	
SET UPボタン	  (FRONT)	LARGE, SMALL	14
	 (CENTER)	LARGE, SMALL, NO	
	  (SURR)	LARGE, SMALL, NO	
	 (SUB WOOFER)	S.W. YES, S.W. NO	
	  (FRONT) XX.X m	1.0 m~12.0 m (0.1 m単位)	
	 (CENTER) XX.X m	1.0 m~12.0 m (0.1 m単位)	
	  (SURR) XX.X m	1.0 m~12.0 m (0.1 m単位)	
	  (SURR) PL. XXX	PL. SIDE, PL. BEHD.	
	  (SURR) HGT. XXX	HGT. LOW, HGT. HIGH	
	MULTI VI.	TV, DVD, VIDEO, AUX, OFF	34
	TUNER VI.	TV, DVD, VIDEO, AUX, OFF	

リモコンのボタンについて

リモコンを使って本機を操作することができます。それぞれのボタンは以下のように設定されています。

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
SLEEP	レシーバー	スリープタイマーを使ってレシーバーの電源がオフするまでの時間を設定する
AV I/O	テレビ／ビデオデッキ／CDプレーヤー／DVDプレーヤー／MDデッキ／ビデオCDプレーヤー／LDプレーヤー／DATデッキ	オーディオ／ビデオ機器の電源をオン／オフする
I/O	レシーバー	レシーバーの電源をオン／オフする
VIDEO	レシーバー	ビデオを見る
DVD	レシーバー	DVDを見る
TV	レシーバー	テレビ番組またはサテライト番組を見る
TUNER	レシーバー	ラジオ番組を聞く
MULTI CH	レシーバー	MULTI CH INPUT端子に接続した機器の音を聞く
0-9	レシーバー	DIRECT TUNINGやMEMORYモードの時、SHIFTボタンとともに使って数字を入力する
	CDプレーヤー／MDデッキ／ビデオCDプレーヤー／LDプレーヤー／DATデッキ	トラック番号を選ぶ 0を押すと10が入力されます
	テレビ／ビデオデッキ／サテライトチューナー	チャンネル番号を選ぶ
>10	CDプレーヤー／MDデッキ／カセットデッキ／LDプレーヤー／ビデオCDプレーヤー	10以上のトラック番号を選ぶ

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
ENTER	テレビ／ビデオデッキ／サテライトチューナー／カセットデッキ／LDプレーヤー／ビデオCDプレーヤー／MDデッキ／DATデッキ	数字ボタンでチャンネル、ディスク、トラックを選んだあと、押して確定する
SHIFT	レシーバー	放送局を登録するときや、登録した放送局を選ぶときに、繰り返し押してメモリーページを選ぶ
D.TUNING	レシーバー	放送局を手動受信モードにする
◀◀/▶▶	CDプレーヤー／MDデッキ／DVDプレーヤー／LDプレーヤー／ビデオCDプレーヤー／カセットデッキ／ビデオデッキ／DATデッキ	トラックを戻す／進める
◀◀/▶▶	CDプレーヤー／DVDプレーヤー／ビデオCDプレーヤー／MDデッキ／LDプレーヤー／カセットデッキ／ビデオデッキ／DATデッキ	トラックを（順または逆方向に）サーチする
	カセットデッキ／ビデオデッキ／DATデッキ	早送りまたは巻き戻しする 再生中に押すとサーチします
◀	カセットデッキ	テープの反対面を再生する
▶	CDプレーヤー／MDデッキ／カセットデッキ／ビデオデッキ／DVDプレーヤー／ビデオCDプレーヤー／LDプレーヤー／DATデッキ	再生する

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
II	CDプレーヤー／ MDデッキ／ カセットデッキ／ ビデオデッキ／ DVDプレーヤー／ ビデオCDプレーヤー／ LDプレーヤー／ DATデッキ	再生または録音を一時停止する（録音一時停止中に押すと録音を始める）
■	CDプレーヤー／ MDデッキ／ カセットデッキ／ ビデオデッキ／ DVDプレーヤー／ ビデオCDプレーヤー／ LDプレーヤー／ DATデッキ	停止する
POSITION*	テレビ	小画面の位置を調節する
SWAP*	テレビ	大画面と小画面を入れ替える
DISC	CDプレーヤー	ディスクを選ぶ（チェンジャーのみ）
SUB CH +/-*	テレビ	小画面のプリセットチャンネルを選ぶ
D. SKIP/CH/	レシーバー	登録した放送局を探す／選ぶ
PRESET +/-	テレビ／ビデオデッキ／ サテライトチューナー CDプレーヤー／ ビデオCDプレーヤー／ MDデッキ	プリセットチャンネルを選ぶ ディスクをスキップする（チェンジャーのみ）
DISPLAY	テレビ／ビデオデッキ／ LDプレーヤー／ DVDプレーヤー／ ビデオCDプレーヤー	テレビ画面に出る表示を選ぶ
P IN P*	テレビ	ピクチャーインピクチャー機能を使う
JUMP	テレビ	前のチャンネルと今のチャンネルを切り換える
WIDE	テレビ	ワイド画面モードを選ぶ

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
ANT TV/VTR	ビデオデッキ	ビデオのアンテナ端子からの出力信号を選ぶ（テレビまたはビデオ信号）
TV/VIDEO	テレビ	テレビの入力を選ぶ
FM/AM	レシーバー	バンドを選ぶ
A. F. D.	レシーバー	オートフォーマットデコーディング
2CH/OFF	レシーバー	2CHモードを選ぶ
MODE +/-	レシーバー	サウンドフィールドを選ぶ
MUTING	レシーバー	レシーバーの音をミュートする
TEST TONE	レシーバー	テストトーンを出す
MAIN MENU	レシーバー	レシーバーの設定モードを選ぶ
MASTER VOL +/-	レシーバー	レシーバーの音量を調節する
MENU </>	レシーバー	メニューの項目を選ぶ
MENU +/-	レシーバー	設定を変える、調節する
MENU	DVDプレーヤー	メニューを表示する
◀/▶/◀/▶	DVDプレーヤー	メニューの項目を選ぶ
ENTER	DVDプレーヤー	選択した項目を確定する
RETURN	DVDプレーヤー	前のメニューに戻る、またはメニュー設定をやめる
TITLE	DVDプレーヤー	タイトルを表示する

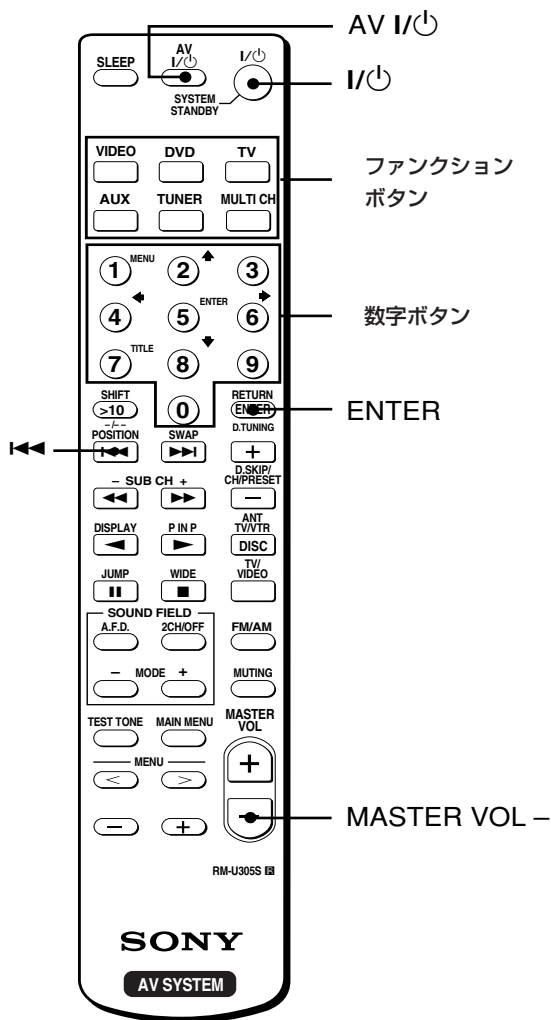
* ピクチャーインピクチャー機能がついたソニー製テレビのみ

ご注意

- 機種によっては動作しないボタンがあります。
- 機能の説明は、例としてあげています。機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。

ファンクションボタンの設定を変える

ファンクションボタンの設定がお手持ちのシステムと合っていない場合は、例えば、MDデッキとカセットデッキをお持ちで、DVDプレーヤーをお持ちでない場合、DVDボタンにカセットデッキを割り当てることができます。ただし、TUNERボタンの設定を変えることはできません。



1 設定を変更したいファンクションボタンを押し続ける。(例：DVDボタン)

2 ファンクションボタンに割り当てたい機器のボタンを押す。(例：4-カセットデッキ)

それぞれの機器を割り当てするには、以下のボタンを押してください。

割り当てる機器	押すボタン
CDプレーヤー	1
DATデッキ	2
MDデッキ	3
カセットデッキA	4
カセットデッキB	5
LDプレーヤー	6
ビデオデッキ (VTRモード1*)	7
ビデオデッキ (VTRモード2*)	8
ビデオデッキ (VTRモード3*)	9
テレビ	0
DVDプレーヤー	ENTER
VCDプレーヤー	⏮

* ソニー製ビデオデッキはVTR 1、2、または3の設定で動作します。これらはそれぞれベータ、8 mm、VHSに対応しています。

これで、DVDボタンでカセットデッキを操作できるようになります。

すべてのファンクションボタンを工場出荷時の設定に戻すときは

I/Oボタン、AV I/Oボタン、MASTER VOL -ボタンを同時に押す。

索引

五十音順

あ行

主な仕様 38～39

か行

各部の名称と基本操作 19

前面の各部の名称 19～20

故障かな？と思ったら 36

さ行

サウンドフィールド

サウンドフィールドを選ぶ 22

サウンドフィールドを加工する
26～27

調節できるパラメーター 28

プログラムされているサウンド
フィールド 23～24

リセットする 27

サラウンドサウンド 14～17、
21～28、40

サラウンドパラメーターの調節 27

サラウンドを楽しむ 21

初期設定 13

使用上のご注意 35

接続

確認する 18

スピーカーを接続する 11

デジタル機器を接続する 7

ビデオ機器を接続する 6

スピーカーの設定 14～17

音量の調節 17

距離の設定 15～16

スリープタイマーを使う 34

ソースを選ぶ 19

た行

デジタルシネマサウンド 40

テストトーン 17

電池を入れる 4

ドルビーデジタル 40

ドルビープロロジックサラウンド
40

は行

箱から出したら 4

付属品 4

保証書とアフターサービス 37

ま行

マルチチャンネルサラウンド

設定 14～17

表示の見かた 25

や行

用語解説 40

アルファベット順

CINEMA STUDIO A 23

CINEMA STUDIO B 23

CINEMA STUDIO C 23

GAME 23

JAZZ CLUB 23

HALL 23

LIVE HOUSE 23

NORMAL SURROUND 23

VIRTUAL MULTI DIMENSION
23

VIRTUAL SEMI-MULTI
DIMENSION 23

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様相談センターへ

● ナビダイヤル…………… 0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は……… 03-5448-3311

● Fax …………… 0466-31-2595

受付時間：

月～金
9:00～20:00

土・日・祝日
9:00～17:00

<http://www.sony.co.jp/>

Sony Corporation Printed in Malaysia